



大桑の歴史を訪ねて

遠い昔、加賀の国、犀川西岸の台地の麓、貝殻淵と呼ばれた地に高さが数十丈を超える桑の老木があった。幹や枝が大いに茂り、三千坪に広がっていたといわれる。この地は大桑村と名づけられ、東は医王山に接し、西は布市村と隣接していた。泰澄大師がこの地に社を建て、守護神を祀った。

花山天皇の頃、帝の行幸に際し坂の御所がこの地に置かれた。これに因む御所ヶ谷は布市村に通じる切り通しで、御参詣坂の由来でもある。

この後、富樫氏の一族、大桑三郎利光の居城であった。

この村に多くの寺があったが、善福寺、徳善寺、光誓寺などは大桑郷から移転した。明治四年の犀川大洪水の際、桑の根の一部が水中より現れた。翌年に藩士の中山守成が掘り取った。これを後に石川県勸業博物館に移し、同館にて保管した。

明治三十五年一月

日吉社



崎浦公民館

題名	大桑の歴史を訪ねて		
公民館名	崎浦公民館		
種別・時間	DVD・15分		
制作目的	<p>地区内の大桑町をとりあげ、その歴史的な町の成り立ちや、考古学的に広く知られる町名の由来、世界的に有名な出身者に迫り、教材の一つとして将来へ残されることを願う。</p>		
作品の内容	<p>崎浦地区ミニ探訪シリーズの第2弾となり、地区内にあって1300年以上の歴史を刻み続けている町「大桑」周辺にスポットを当てる。</p> <p>太古から現代にいたるまでの、有名どころを部分的に切り取り、アニメーション等を織り交ぜて、最大限の興味を抱かせる作りとしたもの。</p>		
制作内容	脚本	視聴覚委員	徳田 勝悟 谷内 賢正
	撮影・録画	視聴覚委員	田辺 敏 諸角 和人 徳田 勝悟 ほか視聴覚委員一同
	作画	視聴覚委員	徳田 勝悟
	ナレーション		Kyoko (人工知能)
	録音		